

ふれあい親子体験ツアー

「森と水とエネルギー」の開催



四国電力(株)高知支店とオイスカ高知県支局との共催で「森と水とエネルギー」について親子で体験しながら学びました。



親子で植樹体験



エネルギープラザ本川において発電体験



六月一二日、四国電力(株)高知支店及びオイスカ高知県支局との共催で、「ふれあい親子体験ツアー」を開催しました。

これは、六月の環境月間に合わせて、小学生と保護者を対象に「森と水とエネルギー」テーマに、森林の役割やエネルギーについて理解することを目的に行っているもので、今回で八回目を迎えました。

当日は、一般公募による二〇組、三九名の親子が参加しました。

はじめに、四国電力エネルギープラザ本川において、四国森林管理局の斎藤計画部長が、森と水そしてエネルギーについて見て聞いて体験してくださいと挨拶し、発電所の勉強をした後、地

下深くにある本川発電所の揚水発電施設を見学しました。

この見学では、普段見ることの出来ない発電所の設備の説明に、保護者の方々が興味深げに聞き入っていました。

次は、道の駅「木の香」(いの町桑瀬)の河原で、地元の漁協の指導を受けアメガの放流体験を行いました。子ども達は、初めての体験とあって大歓声を上げていました。

その後、稲村ダム(本川発電所の上池)周辺で植樹作業です。

今年度は、土佐町の「ふるさとの森を育む会」の協力により、夏ツバキの植栽を実施しました。

植栽場所は、もともとダム建設用道路の跡地で土壌が少ないため、予め同会の方が、植え付け穴と客土の



アメガの放流

準備をし、子ども達は初めて使うクワに悪戦苦闘しながら、親子で協力して植樹をしました。

閉会は、四国電力の石井課長から、森を育て水を大切にエネルギーを大切に使うようお願いのあいさつがあり、全行程を終了しました。

今年は、天候にも恵まれ、子ども達には、思い出に残るツアーになったと思います。



平成二二年六月一日高

知県立高知農業高等学校の森林総合科二年生二五名を対象に、国有林野事業に関する講義を行いました。

本取組みは、平成一九年度から森林環境教育の一環として実施しているもので、森林総合科の生徒に、国有林野事業や林野行政に対する理解を深め、卒業後の進路等を考える上での参考にしてもらっています。

この講義では、森林管理局の業務に関する講話と入庁案内、最近の森林・林業の動向や四国森林管理局の事業内容等を紹介しました。現在のところ、四名が四国森林管理局等へ就職を希望して公務員試験を受験する予定と聞いていますが、

本講義により、更に受験したいという生徒が増えることを期待しています。



高知農業高校での講義の様子

職員定期表彰式



平成二二年度国有林野事業職員定期表彰式を六月三〇日、高知城ホールで行いました。

表彰式では、篠田局長から受賞者の長年にわたる職務への努力と受賞者を支えてこられた家族の方への労いの言葉と「長年に亘り培

われた豊富な見識と経験を
活かして、若手職員の指導
とともに開かれた『国民の
森林』に向けて、引き続き
ご尽力願いたい。」との、式
辞があり、受賞者一人一人
に表彰状が手渡され、代表
して、局総務課の那須さん
から、「本日の受賞を契機に
初心に返り、新たな気持ち
で業務に邁進することを誓
います。」と答辞がありまし
た。

永年勤続表彰受賞者
○一級精勤章（一八名）
局長 事 篠田幸昌
総務部 技 那須 悟
技 吉良崇夫
技 川村春喜
技 谷本明夫
技 川口 智
事 川口 智
技 芝 淳
技 田邊 宏
事 石田俊郎
愛媛署

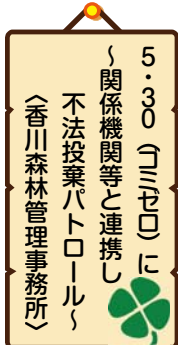
技 竹倉昌直
技 竹内千幸
基 竹内 仁
技 中山修一
基 長野考児
技 刈谷 誠
技 窪田浩二
技 後藤哲也
技 米津誠喜
○二級精勤章
企画調整室 事 森田裕一
総務部 技 川井延幸
技 小川靖志
技 佐古明弘
技 川村倫代
技 西田哲也
技 川上亀男
技 朝比奈和弘
技 牛尾善博
事 川邊亜紀
嶺北署
安芸署
四万十署



【職員定期表彰】



各地のたより
『ボランティア編』



五月三〇日、全国ごみ不法投棄監視ウィークに合わせ、高松市主催で、当所や関係行政機関、衛生組合協議会、警察等による不法投棄者調査パトロールが行

われました。

当所は、屋島国有林がある屋島地区を巡回し、不法投棄の監視やゴミの回収を行いました。屋島国有林は、

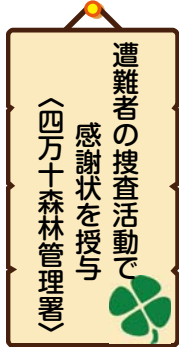
史跡・天然記念物や瀬戸内海国立公園に指定され、また、風景林にも指定しており貴重な国有財産ですが、悪質な不法投棄に悩まされています。当日も衣服類や紙類のほか、パチンコのスロット台等が捨てられており、モラルの低下が見受けられます。一方で、高松市や警察等と連携した撤去活動、摘発により年々不法投棄が減少しています。一般廃棄物の不法投棄した者については、五年以下の懲役若しくは一千万円以下の罰金、又はこの両方の罰則を受けることもあります（法人に対しては一億円以下の罰金）。

香川森林管理事務所では、

引き続き、パトロール・看板設置による未然防止等により不法投棄をなくすように保全管理を行っていきます。



屋島国有林でのゴミ回収の様子



本年の五月の山岳遭難者捜索活動において「迅速かつ的確な捜査活動を行い人命救出に寄与した」として六月一〇日、四万十森林管理署大正・下津井合同森林事務所職員一四名を代表して外山首席森林官が、窪

川警察署長から感謝状を頂きました。

これは、五月九日、四万十町大正の国有林城戸木森（しるどきもり標高約九〇〇m）で、高知市内の男性が一人で登り遭難したもので、地元消防署や警察署から連絡を受けた合同森林事務所は、施業実施計画図等の資料提供や現地での搜索活動に協力しました。

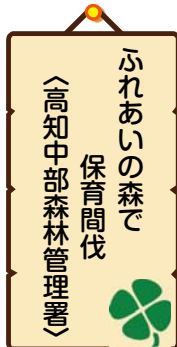
搜索が始まった一〇日は、小雨交じりの天候で視界も悪く足元も不安定な状況で搜索活動は難航しました。翌一日には署から六名・森林事務所についても、大正・下津井森林事務所（四名）に加え、窪川・中津川・構原森林事務所（二名）も搜索活動に参加して、朝七時から搜索を開始した結果、午前一〇時頃、城戸木森の山道で消防署員が行方不明者を発見し無事保護

されたものです。

今回の遭難を踏まえ、当署では、登山者が安心して山歩き等を楽しめるよう、登山ルートの確認や登山道周辺の標識類の整備・点検を実施しました。



感謝状を贈呈された大正・下津井合同森林事務所の職員



六月六日、西熊山国有林に設定されているふれあいの森「共に考えよう」部物の森」にてNPO法人「我

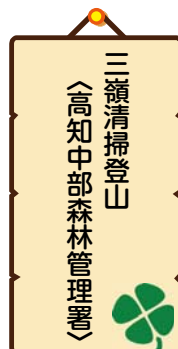
が家を見直す会」が募ったボランティア一〇名が保育間伐作業を行いました。

今回は、保育間伐作業初体験の参加者が半数を占めたため、当署基幹作業職員等の指導のもと、慎重に作業が進められました。当該地は林齢三六年生ヒノキで枝張りが大きいため、かかり木の処理に迫られました。間伐木が倒れ林内に光が差し込むと参加者からは「おっっ」という歓声が上がりました。

後日、「我が家を見直す会」の理事長である川合通子氏より「明るい山となったことを実感できて達成感抜群でした。疲れましたが楽しくでき嬉しかったです。管理署の皆様のお陰です。本当にありがとうございます。秋も頑張つて企画しますのよろしくお願いします。」とお礼のメールが寄せられました。



保育間伐の様子



五月三〇日、三嶺山系において第三五回清掃登山（「三嶺を守る会」主催）が行われました。当日は、当署を含む九団体と一般の方を合わせて七三名の参加がありました。

参加者は、九コースに分かれて、シカの食害調査も行いながら、ゴミの回収にあたりました。

当署が担当した韮生越（にろうこえ）の登山道では、ゴミがほとん

ど見当たらず、登山者のマナー向上を実感することができました。

しかし、登山口の駐車場周辺で、古いゴミを回収した関係もあり、全体では昨年度より多い一二五kgの空ビンや空缶等が回収されました。

だれもが気持ちの良い登山ができるように、山にゴミを捨てないようにしてほしいと思います。毎年この時期に行われている清掃登山ですが、これが必要のない年が来ることを願ってやみません。



回収したゴミの仕分け作業

各地のたより
「森林環境教育編」



「風に飛ぶ種子」
〈ふれあいセンター〉



六月四日、愛媛県松野町立松野西小学校四年生二九名を対象に植物の種子について学習する森林教室を行いました。

まず、植物の種子が風や水、動物などの力を借りて移動していることや、そのために独特の形状をしていることなどを写真を使って説明しました。

その後、マツやカエデ、アルソミトラ（東南アジア産のウリ科の植物）などの風や翼を使って飛ぶ種子が、実際にどのように飛ぶかを実物を使って観察しました。マツやカエデの種子は風洞装置の上で、風を受けるとクルクルと回転し、フワ

リと宙に浮き、まるでヘリコプターのように飛ぶ姿に、児童は驚いている様子でした。また、アルソミトラは、高いところから落とすだけで薄い翼を使って「スーッ」と滑空します。

最後はスチレンシートを使ってアルソミトラとラワン（フタバガキ）の種子の模型を作りました。

薄いスチレンシートに、種に見立てたコルクを張りあわせただけの簡単な構造にもかかわらず、グライダーのように飛ぶアルソミトラの模型もあれば、なかなか思うように飛んでくれない模型もあります。

まるで羽子板の羽根のようなラワンの種は、輪ゴムを使って高く飛ばすと、クルクルと回りながらゆっくりと降りてきます。

児童たちは校庭でそれぞれが作った模型を飛ばし、

自然が作り出す不思議を感じながら何度も飛ばしていました。

今回の森林教室が、児童の植物や自然に対する興味への入り口となってくれることを期待します。



ラワンの模型を飛ばす

木工クラフト教室
〈ふれあいセンター〉



六月九日、土佐清水市

立下ノ加江中学校二年生を対象に木工クラフト教室を開催しました。

今回の開催は、一昨年に当センターが開催した「森林環境サポート講座―森の楽（学）育―」に参加していた職員の方が、「ぜひうちの生徒にも作らせてやりたい。」との思いから要請があり、実施することとなったものです。

はじめに所長から、四万十川源流域の高知県黒尊・大道地域、愛媛県滑床山地域の国有林において、当センターが行っているニホンジカによる被害跡地の植生回復・森林再生やマツクイ虫被害跡地の森林再生に取り組んでいることについて説明しました。生徒達はシカがミヤコザサを食べ尽くした現状を見て被害の酷さに驚いていました。

次に「木材の特徴」と題

して、木の長所である軽くて丈夫なこと、加工しやすいこと、湿度や温度を調整すること、短所として、性質がすべて同じでないこと、シロアリなどの被害を受けやすいことなどについて勉強しました。

次に本日のメインである木工クラフトへと移り、くまの置物等を作りました。たくさん材料の中から自分のイメージに合った木を選び、ノコギリで切ったり、ナタを使ったりして作業を進めました。

生徒の中には、ノコギリが上手く使えなかったり、バンドが上手くくっつかなかったりと悪戦苦闘している子もいましたが、先生に手伝ってもらい無事に完成させることができました。

作り終えた生徒達からは、顔（くま）のバランスを考えて材料を選ぶことや、ノ